

令和3年度 事業報告

はじめに

令和3年度、横浜港振興協会は、全般的に新型コロナウイルス感染拡大の影響を強く受け、各事業を大幅に縮小せざるを得ない状況でしたが、「ミナト町ヨコハマの振興・発展」を推進する役割を担うために、役職員一丸となって横浜港の港湾振興策を推進しました。

市民を対象とした「横浜港見学会」「横浜港出前講座」等の各種事業により、市民の方々に横浜港を理解して頂き、港がより身近で愛着のあるものとなるよう取組を推進しました。

客船の寄港については、コロナ感染の影響により大幅に減少しましたが、その中で引き続き客船誘致を進めるとともに、配船調整業務や、岸壁の運営業務を行いました。

横浜港の施設の管理運営業務としては、大さん橋国際客船ターミナル、八景島マリーナ・駐車場の運営に携わり、安全・安心な施設運営に取り組みました。また、令和3年度は次期大さん橋指定管理者の選考が実施され、当協会は単独で応募し選定されました。

また、「港湾の実業」を通じた次世代人材育成を行うため、令和4年1月に神奈川大学と「包括連携協定」を締結しました。

今後も引き続き、コロナ感染拡大の防止に取り組むとともに、より効率的で効果的な業務執行に努めてまいります。

1 会勢（令和4年3月31日現在）

(1) 会員総数 515 社 832 口

令和3年度増減数

3 社増 4 口増（入会 12 社 13 口、退会 9 社 10 口、口数変更 1 社 1 口増）

(2) 役員

会長	1 人
副会長	4 人
専務理事	1 人
常務理事	2 人
理事	48 人
監事	2 人（以上 計 58 人）

(3) 職員

事務局長	1 人
経営本部	10 人
大さん橋客船ターミナル事務所	7 人
八景島事務所	3 人（以上 計 21 人）

2 会議等の開催

(1) 理事会・総会の開催

- ア 第198回理事会 令和3年5月21日（書面表決）
第70回通常総会提出議案、新規入会会員について承認されました。
- イ 第70回通常総会 令和3年5月28日（書面表決）
令和2年度事業報告・決算、令和3年度事業計画・予算、役員の選任について承認されました。
- ウ 第199回理事会 令和3年5月31日（書面表決）
会長、副会長、専務理事、常務理事の選任について承認されました。
- エ 第200回理事会 令和4年3月30日（書面表決）
令和4年度事業計画、予算、名誉会長の選任及び解任等について承認されました。

(2) 横浜港振興協会拡大交流会

（新型コロナウイルスの影響により中止）

(3) 令和3年度新入社員等研修会

（新型コロナウイルスの影響により中止）

(4) その他（横浜経済7団体共催事業）

令和3年叙勲・褒章・大臣表彰 受賞祝賀会

開催日 令和3年11月22日

3 港湾関係道路網の整備促進活動の推進

横浜港と背後圏とのアクセスを強化し、物流円滑化を図るため、横浜市幹線道路網建設促進協議会の構成団体の一員として、横浜環状道路の整備促進を働きかけました。

4 船舶・貨物誘致活動の推進

(1) 横浜港客船誘致事業

客船誘致に向けた年度計画を策定し、国内のみならず国外のクルーズに関する情報収集及び受入環境の強化を進めました。横浜港を取り巻く様々な課題が関係者間での共通認識となり、定期的に連絡会議を行い、その事務局を当協会が担いました。

(2) 客船受入事業

「飛鳥Ⅱ」「にっぽん丸」「ばしふいっくびいなす」の3隻の寄港がありました。令和3年（暦年）の客船寄港実績は計72回で、うち大さん橋70回、新港ふ頭2回でした。

(3) 横浜港初入港船歓迎サービス業務

横浜港の振興宣伝策のひとつとして、横浜港に初入港する船舶に横浜港シンボルマーク入り楯などの贈呈や初入港歓迎セレモニーを1回実施しました。

楯の贈呈数 38 件、押絵の贈呈数 9 件

初入港歓迎式典の実施

フルコンテナ船 「APL Esplanade」 令和3年12月3日 本牧ふ頭

5 地域連携事業

(1) 前年に続き、地域連携事業を推進するため、協会内に地域連携担当を設け、活動を行いました。

(2) 持続可能な横浜港の構築に向け、お互いが抱える諸課題の解決に共同で取り組み、ミナト町ヨコハマの更なる発展に寄与するとともに、「港湾の実業」を通して次世代人材を育成するため、令和4年1月21日に、神奈川大学と包括連携協定を締結しました。[別途記者発表資料 (P.10-12)]

(3) 近隣商店街や鉄道事業者に対して、クルーズ船の情報提供や連携活動を行いました。

(4) 女神橋の開通に合わせ、臨海部の賑わい創出と回遊性の促進を目的として、ウォーキング&ジョギングマップ「BAYWALK YOKOHAMA」を作成し、市内観光案内所、周辺ホテルや商業施設に配布しました。

令和4年3月26日には本マップのQRコード付き路面サインがコース上に設置されたことを記念し、ウォーキングイベントを実施しました。当日は200人余りが参加し、横浜港の水際沿いのコースでのウォーキングを楽しみました。

(5) 横浜発着のクルーズ客の多くは、東京等で観光・宿泊を行うという課題があります。これを解決する試みとして、実際にクルーズ客に横浜のホテルに足を運んでもらい、客室見学やレストランを利用していただき、横浜観光やホテルの前泊・後泊の利用に繋げる「サロン・ド・ヨコハマ」を開催しました。

6 市民と港を結ぶ事業の推進

(1) 共催事業

ア 横浜港見学会の実施

市民に広く横浜港を理解し、親しんでもらうため、港湾局、横浜港埠頭株式会社、横浜川崎国際港湾株式会社と連携し、横浜港内の周遊やコンテナターミナルなどの港湾施設の見学会を実施しました。

コース及び参加人数等

(ア) マリーナルージュ乗船コース 36回 1,303人

(イ) 港湾施設見学コース 5回 60人

(ウ) マリーナルージュ乗船・港湾施設見学コース 17回 315人

イ 横浜港出前講座の開催

横浜港や港に関係することなどをテーマに、講師を派遣し講座を開設することにより、市民の横浜港に対する理解や関心を深めるとともに、港との結びつきを強化するため、出前講座を行いました。

実施回数 2回

受講者数 44人

ウ 横浜港理解促進事業 提案型事業の実施

春休み 港と運河を巡るクルーズ

開催日 令和4年3月30日

参加者 109人

エ 横浜港客船フォトコンテスト2021の開催

横浜港やクルーズ客船の魅力を多くの方に知っていただくため、港湾局と連携し横浜港に寄港する客船や横浜港の景色を被写体としたフォトコンテストを開催しました。

応募期間 令和4年1月6日～18日

テーマ 横浜港とクルーズ客船

応募総数 97作品

入賞数 8作品

(2) 実行委員会の事務局として実施した事業

ア 第38回横浜港カッターレース

(新型コロナウイルスの影響により中止)

イ みなと祭港湾関連行事の開催

主催 みなと祭行事港湾実行委員会

(ア) 優良海事関係者表彰式

横浜港において永年精励勤務した海事関係者の方々の功績をたたえ、感謝の意を込めて横浜市長より表彰しました。(式典は新型コロナウイルスの影響により中止)

表彰時期 令和3年7月

受賞者 港湾エンジニア 2人、船員2人

(イ) 小学生のための港内見学会

(新型コロナウイルスの影響により中止)

ウ 横浜港国際船員スポーツ大会

ソフトボール、バスケット、卓球、ビリヤード等

(新型コロナウイルスの影響により中止)

7 横浜スパークリングトワイライト関連イベントの実施

港や海に対する認識を深め、併せて横浜港の観光の振興を図り、地域経済の活性化に資することを目的とした「横浜スパークリングトワイライト2021」は新型コロナウイルスの影響で中止となりました。これに代わり、「横浜スパークリングナイト2021」として、5分間の花火打上げを実行委員会の主催団体の一員として実施しました。

開催日 令和3年10月から令和4年1月まで(15回)

内容 新港ふ頭岸壁、山下ふ頭岸壁、大さん橋ミニフロートから5分間花火打上げ
打上げ玉数150発(1月のみ3分間打上げ)

8 横浜港の広報宣伝活動の推進

(1) 各種刊行物の発行

ア 広報誌「よこはま港」の発行

第 145 号（令和 3 年 4 月 1 日発行）	1,300 部
第 146 号（令和 3 年 7 月 1 日発行）	1,300 部
第 147 号（令和 3 年 10 月 1 日発行）	1,300 部
第 148 号（令和 4 年 1 月 1 日発行）	1,500 部

イ 市民向けカレンダー等の制作、販売

横浜港カレンダー2022	2,000 部
横浜港客船カレンダー付ポスター2022	5,000 部

(2) ポートガイド事業

刊行物の翻訳、各資料や施設案内の翻訳等のサービス提供を行いました。また、市民向けの横浜港見学会や県外中学生による横浜港見学（「海の学習」）のガイドも行いました。

出勤人数	8 人（英語 5 人、中国語 2 人、韓国語 1 人）
出勤件数	56 回

9 横浜港振興協会友の会（波止場クラブ）の運営

(1) 友の会会員の募集

広く市民の方々に横浜港を知ってもらうため、友の会会員を引き続き募集しました。

会員総数	77 人（令和 4 年 3 月 31 日現在）
令和 3 年度増減数	6 人増（入会 10 人、退会 4 人）

(2) 友の会会員向けイベントの実施

横浜港について理解を深めていただくため、会員限定の「新造船 SEA BASS ACE で行く“京浜工業地帯を巡る運河クルーズ”」を実施しました。

開催日	令和 3 年 12 月 2 日
見学場所	京浜運河、塩浜運河、田辺運河、大黒ふ頭、扇島等（山下公園発着）
参加人数	40 人

10 横浜港オリジナル記念品等の制作、販売

協会オリジナルグッズの製作、刊行物の販売をしました。新商品として、ドリンクホルダーの製作販売をし、販売数の多いエコバック、メガネクリーナー等の追加制作を行いました。

11 協賛・後援事業等

横浜港の振興・発展に寄与する行事について、協賛または後援等を行いました。

(新型コロナウイルスの影響により、行事・イベントの中止等が続き、協賛及び後援実績は例年より減少しました)

- (1) ワールドトライアスロンシリーズ・ワールドパラトライアスロンシリーズ (2021/横浜) 大会 (世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会)
- (2) GREENROOM FESTIVAL'21 (グリーンルームフェスティバル実行委員会)
- (3) 令和3年度「海の月間」行事 (「海の月間」横浜地区実行委員会)
- (4) 令和3年度海洋都市横浜うみ協議会 (海洋都市横浜うみ協議会)
- (5) 第34回横浜港ボート天国 (横浜港ボート天国推進連絡協議会)
- (6) 横浜スパークリングナイト2021 (横浜スパークリングトワイライト実行委員会)
- (7) 第6回横浜絹フェスティバル (横浜絹フェスティバル実行委員会)
- (8) 第32回子ども会書道展 (横浜市子ども会連絡協議会)
- (9) 横浜シドモア桜祭り2022 (横浜シドモア桜祭り実行委員会)
- (10) ジャパンインターナショナルボートショー2022 (一般社団法人日本マリン事業協会)

12 横浜港の施設の管理運営等

- (1) 大さん橋国際客船ターミナル指定管理業務

指定管理者として大さん橋ターミナルの管理運営をしました。来場者は2,136,057人となりました。また、以下の実績のとおり、客船の受入れを始めとしたインナーハーバーの更なる活力と賑わいの創出を実現し、安心安全な施設づくりのために各訓練、講習、研修会なども実施しました。

ア 客船の入出港に関する主な管理運営業務

入港隻数 (暦年) 72回

(うち、大さん橋70回、新港ふ頭2回)

イ ターミナルの来場者数

2,136,057人

ウ ターミナルの駐車場利用台数

132,737台

エ 大さん橋ホールの営業稼働日数

137日間

オ 撮影の利用件数

静止画2,078件、動画138件

カ 主な訓練、講習、研修会

全体防災訓練 (年2回)

館内消防設備点検 (月1回)

防犯講習 (年2回)

衛生管理研修 (年2回)

キ 主な自主事業

大さん橋くじらのピアノ（通年）

中区防火ポスター展示会（11月1日～11月15日）

横浜港フォトジェニックイルミネーション（11月3日～3月27日）

大さん橋くじらのせなかマルシェ（3月26日）

ク 次期大さん橋指定管理者の応募及び選定

第4期大さん橋指定管理者（令和4年4月1日から5年間）の公募にあたり、次の理由により当協会単独で応募し、横浜市により選定されました。

- ・単一団体の運営により、迅速な意思決定が可能
- ・管理費等のコスト削減による経済性の向上
- ・現場スタッフのマルチジョブによる組織・人員のスリム化 など

(2) 大さん橋岸壁の安全管理業務

大さん橋ふ頭は外航客船が入出港を行う際に SOLAS 条約（海上人命安全条約）の対象となる岸壁であるため、埠頭保安管理者（横浜市港湾局）が定める規定に基づき、24時間365日、岸壁に出入りする車両と人の管理を実施しました。

(3) 配船業務及び客船等岸壁受入業務

横浜市から委託を受け、客船等の配船調整業務や大さん橋ふ頭など客船等が着く岸壁の運営業務を実施しました。

(4) 八景島マリーナ等の運営

ア 八景島マリーナの運営事業

八景島マリーナの運営業務を横浜市から受託し、安全かつ良好な状態で管理しました。また、大学ヨット部関連事業のほか、市民を対象にしたレンタルヨット及びヨットスクール事業を実施しました。

(ア) 通年事業としてマリーナの管理運営を実施

毎日オープン（年末年始を除く）

業務内容：クラブハウスの運営、マリーナ海上業務、施設の点検・補修業務、各種連絡調整業務等

(イ) 大学ヨット部活動

大学数	出艇日数	出艇数
13大学	148日	5,255艇

(ウ) レンタルヨット

区分	会員人数	利用回数
シーズンレンタル会員	9人	69回
レンタル会員	92人	24回

(エ) ヨットスクール

区分	開催日数	受講者数
技術習得コース	16日	延べ75人

イ 指定管理業務の一部の実施

八景島指定管理業務の一部を受託し、指定管理者とともにイベントを開催・運営及び島内の管理を実施しました。

(ア) 体験教室 IN 八景島

開催日 土日祝日及び夏休み他 計 140 日

参加者 1,278 人

(イ) 八景島利用実績

区分	利用回数	利用者数
来島者数	—	2,443,500 人
イベント広場の貸出	76 日	8,430 人
公共さん橋	4,054 回	76,257 人

ウ 八景島駐車場の運営事業

周辺の交通対策を行う中、八景島駐車場の管理運営を実施しました。

令和3年度は、前半に新型コロナウイルスの影響があったものの、緊急事態宣言の解除とともに八景島来島者が増え、利用実績が増加しました。D駐車場については1日のみの運営となりましたが、C駐車場における平日の利用者の増加及び回転の向上等により、合計台数では新型コロナウイルス拡大前の水準に回復しました。

区分	利用実績		前年対比
	令和2年度	令和3年度	
B駐車場	20,690台	30,950台	+10,260台
C駐車場	25,437台	61,388台	+35,951台
D駐車場	—	80台	+80台
合計	46,127台	92,418台	+46,291台

13 その他の取り組み

当協会は、働きやすい職場環境づくりを積極的に進め、女性の活躍やワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいることから、横浜市から「2021年度よこはまグッドバランス賞」として認定されました。

14 令和3年度会員変更一覧

(1) 新規入会会員

(店社名)	(口数)
有限会社八景テクニカルサービス	1口
日本サイン株式会社	1口
リゾートトラスト株式会社 (ザ・カハラ・ホテル&リゾート横浜)	1口
一般社団法人美港都市横浜を創る会	1口
株式会社MIND	2口
税理士法人さくら共同会計事務所	1口
有限会社フローリスト・ナオ	1口
東洋メディアリンクス株式会社	1口
株式会社シゲン	1口
松浦企業株式会社	1口
一般社団法人日本自動販売機利活用社会貢献事業機構	1口
株式会社eBoard	1口

(2) 口数変更会員

(店社名)	(口数)		(新口数)
三栄通信工業株式会社	1口	→	2口

(3) 退会会員

(店社名)	(口数)
株式会社六面堂	1口
プロミネントジャパン株式会社	1口
横浜港湾運送事業協同組合	1口
放送大学神奈川学習センター	1口
山王印刷株式会社	2口
株式会社石井	1口
株式会社島忠ホームズ 新山下店	1口
三栄セキュリティ株式会社	1口
株式会社根岸の旗や	1口

PRESS RELEASE

2022（令和4）年1月21日（金）

一般社団法人横浜港振興協会

神奈川大学

一般社団法人横浜港振興協会と神奈川大学との包括連携協定締結について

一般社団法人横浜港振興協会（本部・中区、藤木 幸夫会長）と神奈川大学（本部・神奈川区、学長 兼子 良夫）は2022（令和4）年1月21日（金）、包括連携協定を締結しました。



1. 概要

・横浜港振興協会は、横浜市、横浜商工会議所の呼び掛けにより1953（昭和28）年に設立され、以来、横浜港の港湾関係の諸団体・企業を網羅する唯一の団体として、横浜港の振興発展に尽力してきました。会員数は現在約500社を数え、客船誘致、市民と港を結ぶ各種事業など、横浜港の振興策を積極的に推進しています。

神奈川大学は1928（昭和3）年、京浜工業地帯の港湾関係などで働く若者が、働きながら学べる夜間の専門学校を桜木町に開設したのが始まりで、当初から「貿易科」を設置しておりました。ことし4月、開学の地近くのみなとみらい21地区に新キャンパスをオープンさせ、ミナト町・ヨコハマの大学としての原点に立ち返り、海に関わる研究・教育を推進していきます。

・横浜港振興協会と神奈川大学は、横浜港の振興という共通の目標に向かい、両者の特色を生かしつつ、さらなる相乗効果を生む各種事業を展開するため2年前か

ら事前協議を重ねてきました。横浜港のシンボルでもある大さん橋国際客船ターミナルなど港湾施設を活用した観光振興、賑わいの創出、海洋産業や横浜港の歴史、まちづくりなどに関わる研究促進、港に関心を持つ人材養成などの連携・協力事項に両者間で取り組むことで意見が一致し、包括連携協定を結ぶことになりました。

2. 協定の目的

・この協定は、一般社団法人横浜港振興協会と神奈川大学が相互に協力し、緊密な連携を図り、持続可能な横浜港の構築に向け、お互いが抱える諸課題の解決に共同で取り組み、ミナト町ヨコハマの更なる発展に寄与するとともに、「港湾の実業」を通して次世代人材を育成することを目的とする。

3. 具体的な取り組み

・本協定締結後に予定している具体的な取り組みは以下の通りです。さらに今後、両団体間で定期的に協議を重ね、取り組みの成果を検証するとともに、横浜港の振興に資する新たな取り組みも加えながら、連携をより一層充実させていきます。

(1) 海とみなとに関わる教育全般についての支援・協力に関すること

- ・横浜港振興協会からの講師派遣により、港湾理解に資する内容の講演会の開催、歴史、貿易等をテーマとした出前講座、連続講座の開催。
- ・神奈川大学からの講師派遣による市民または港湾関係者向けの公開講座の定期実施
- ・学生に港を知ってもらうため、横浜港振興協会が提供する既存事業（観光船やマイクロバスで横浜港を巡りその歴史や港湾施設の役割を学ぶ「横浜港見学会」等）を活用したフィールドワーク等による教育活動の実施。
- ・八景島マリーナを活用した体験学習、研修会の実施。

(2) 大さん橋国際客船ターミナル等、港湾施設等を活用した観光振興、賑わい創出に関わる支援・協力に関すること

- ・学生による臨海部の観光振興策の企画立案等、課題解決型学習の実施。
- ・大さん橋における客船の入出港時オリジナルセレモニーへの学生による企画立案・参加。
- ・客船寄港に合わせた市内周遊バスの運行に関わる協力。
- ・みなとみらいキャンパス展示エリアでの大さん橋等に関連した港湾理解に資する資料（写真、模型、映像等）の共催展示。

- ・横浜港の観光振興等につながる横浜港振興協会の刊行物（ウォーキングマップ、ガイド等）をみなとみらいキャンパス観光ラウンジに配置・配布。

（３） 海洋環境調査・研究等の充実に関わる支援・協力に関すること

- ・神奈川大学の「海とみなと研究所」（令和３年度内開設予定）が研究対象にする海洋産業、海とみなとの歴史、港湾隣接地域のまちづくりなどに関する、横浜港振興協会との連携（調査協力、共同研究等）。
- ・大さん橋等を活用したフィールドワークの実施検討
- ・神奈川大学の研究やイベントを周知・PR するために刊行物（チラシやパンフレット等）を大さん橋インフォメーションに配置・配布。

（４） 大学生の就職支援とキャリア形成の推進に関すること

- ・横浜港に関連する各種職業に関するキャリア講座の実施。
- ・横浜港振興協会でのインターンシップの受け入れ。
- ・横浜港振興協会の会員企業の求人情報、会社案内パンフレット等の学生への周知。
- ・神奈川大学が実施する業界研究フェア、企業説明会の横浜港振興協会の会員企業への周知。

（５） その他本協定の目的を達成するために両団体が必要と認めたこと

お問い合わせ先

一般社団法人 横浜港振興協会 事務局長 矢野 ☎ 045-671-7241

神奈川大学 社会連携センター 課長 小林 ☎ 045-664-3710（代）